

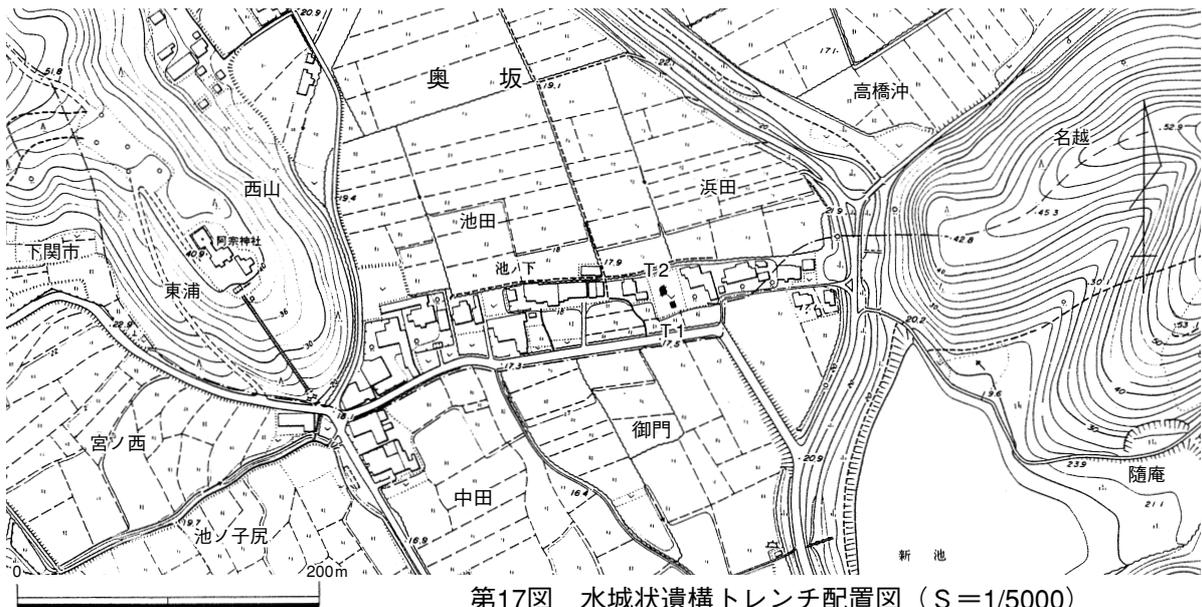
## 第2節 水城状遺構の確認調査

鬼城山麓東の谷を塞ぐ形で堤が構築されている。この堤の性格については、小字に「御門」<sup>みかど</sup>があること、九州の「水城」に類似することなどから鬼城山と関連ある遺構ではないかと想定する考えがあり、確認調査を実施した。今回の調査は、鬼城山整備計画策定を行う上で、この堤が関連遺構であるかを探るのが目的であった。調査地は堤のほぼ中央の畑地で地権者の承諾を得ることのできる場所とした。この堤上には古くから住居等が存在し、調査箇所選定は畑地等の空いた場所に限られた。

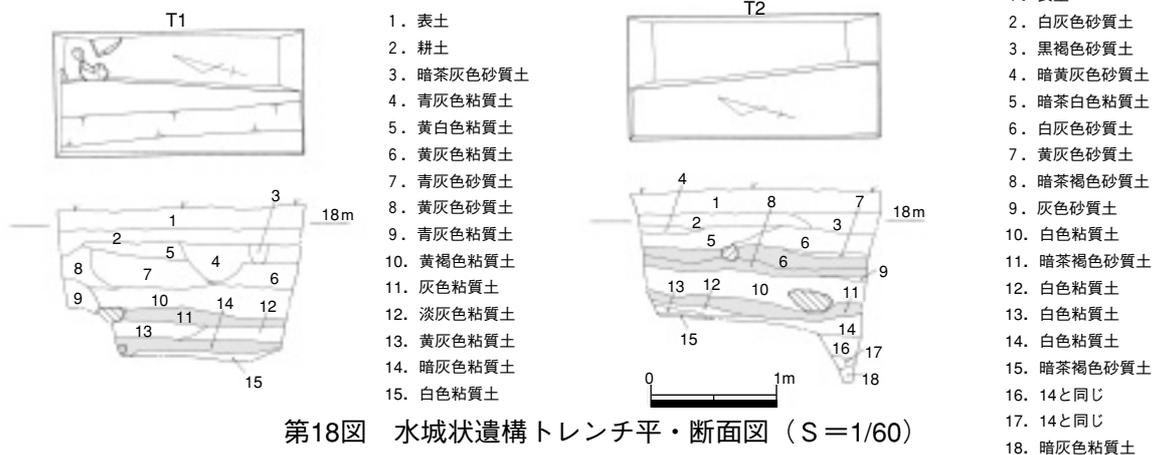
調査は堤に対し直行する方向に2箇所、試掘溝を設定し、人力で掘削を行った。調査の結果、2箇所共に上層に暗渠排水や攪乱部分があり、断面で下層を確認することとした。しかし、掘削面積が狭いことと湧水のため、1.5m以上は掘削できなかった。

堤中央に近い部分では砂質土と粘質土との互層を確認し、この堤が版築状に盛土された構築物であることが判明した。また、各層は南に緩やかに傾斜していた。これにより、南に設定した試掘溝では前述の版築状の層は見られず、下層はほぼ水平な層となっていた。しかし、調査面積が狭いことや、連続して掘削していないことから、両試掘溝の差を明確に説明することはできない。

今回の調査では、堤の構築時期を決めるような遺物の出土は無かった。 (谷山 雅彦)



第17図 水城状遺構トレンチ配置図 (S=1/5000)



第18図 水城状遺構トレンチ平・断面図 (S=1/60)